

日本基督教団  
柿ノ木坂教会

牧 師 渡邊 義彦  
協力牧師 松下 恭規

# 教会報

181号 2017年6月4日

〒152-0022

東京都目黒区柿の木坂

1-31-19

電話：03-3717-3870

Fax：03-3717-3916

## 巻頭言

### 「主は、あなたがたのうちに働かれる」

——フィリピの信徒への手紙第2章 12～13節——

牧師 渡邊 義彦



だから、わたしの愛する人たち、いつも従順であったように、わたしが共にいるときだけでなく、いない今はなおさら従順でいて、恐れおののきつつ自分の救いを達成するように努めなさい。あなたがたの内に働いて、御心のままに望ませ、行わせておられるのは神であるからです。  
(新共同訳聖書)

使徒パウロは、「わたしの愛する人たち」と呼びかけ、「恐れおののきつつ自分の救いを達成するように努めなさい」と教会に勧めます。

使徒は、教会に、兄弟姉妹たちに「愛する人たち」と呼びかけています。愛する「人たち」なのです。個人ではありません。個人化していない、個人主義ではないのです。スタンドプレーではないのです。チームプレーなのです。信仰の共同体に呼びかけています。

使徒パウロが、このようにフィリピ教会に呼びかけ勧める背後には、はっきりとした言葉になっていませんが、傲慢になり、傲り高ぶり、神の救いを、キリストをないがしろにする教会員たちが起こっていて、教会が神の教会ではなくなっていたことがあったのではないかと想像します。この箇所の直前に、キリスト賛歌、キリストの謙りを歌う讃美を引いて、教会が健全な謙遜を取り戻すことを勧めたことにも同じ理由があったのだと思います。信仰の共同体が傲

慢に、高慢に陥っていないか、共同体が自分たちの利益だけを追求する利己心に陥っていないか、共同体が神を誇らず、自らの業績を誇る虚栄心に陥っていないかを省みなくてはなりません。

使徒が「自分の救いを達成するように努めなさい」と勧めるのは、自分の力で獲得した資格で、自分で身に付けた能力で、自分の努力と工夫、そして精進で、自分で悟りを開いた開眼をもって自力で自らを救うというのとは違います。「恐れおののきつつ」と言われるのは、救われるのか救われないのかわからないままに戦々恐々として、恐れに萎縮して、滅びの恐怖に金縛りようになって、奮闘努力せよ、そうしなければ救いはないというのとも違います。「恐れおののきつつ」とは、キリストに倣う健やかな謙りを告げる言葉です。

キリストが自らを虚しくなさり負ってくださった十字架に既に、キリストが果たしてくださった復活に既に、全存在が落ちてしまっている罪人の救いに必要なことは完全に果たされたのであるから、わたしたちはこの救いを決して無駄にしてはならないのです。謙虚に謙り救いに有難く与らなくてはならないのです。差し出された救いに手を差し伸べこれを受け取るだけでよいのです。唯キリストが救ってくださることを信ずるだけでよいのです。キリストがおられ

るところに救いがあります。キリストは確かに生きておられます。キリストは救い主としていてくださいます。キリストがおられるので、わたしたちがどんなに罪深い者であっても救われます。この救いを無駄にしてはなりません。

この救いの事柄を、使徒パウロは言葉を続けてこう申します。「あなたがたのうちに働いて、御心のままに望ませ、行わせておられるのは神であるからです。」

救いにふさわしく、砕かれて、柔らかな魂をもって、決して自らを誇ることなく、自己推薦することなく、自らの業績や功績を勲章とすることなく、唯このような者を救ってくださるために、神が無償で、罪という負債を負っているのですから、わたしたちはマイナスの負債を負っています、この負債もすべてを支払ってくださって救ってくださった恵みを、唯感謝して受け取り神のために生きるのです。神が望んでいてくださるので、わたしたちもそのように生きることができます。

神を忘れ、この世のことだけに心奪われている世界の中で、教会は、神に仕えることを思い起こした者たちの集うところです。救われて、神に仕えることの喜びを思い起こすことの幸いに、もっとたくさんの人々を招くことを教会はできます。神が、あなたのことを招いてくださっていると告げてあげることが、祈ってあげることが、教会にはできるのです。

使徒パウロは、自分に迫る死を予感しています。使徒たちは福音を宣べ伝えることが命がけであった時代に生きました。けれども、キリスト者たちは福音が宣べ伝えられるのであれば、福音を伝道することでその地に教会が建設されてゆくのであれば、この命さえも惜しくはないと考えました。神のために生きることができるからです。伝道する教会が建てられてゆくことで、神の栄光が世界に明らかになるからです。罪人が一人でも救われるのであれば、そのようにして神にだけ誉れが帰されてゆくのであるからです。このことに命を献げることは喜ばしい

ことであると信じ本当に命がけで伝道しました。

使徒パウロだけでなく、使徒たちだけでなく、フィリピ教会の兄弟姉妹もそうでした。そこから続くすべての教会にいつも絶えることなくすべてを献げて福音の伝道に力を尽くす者たちが、救いの前進にすべてを献げてきた献身者たちがいたのです。

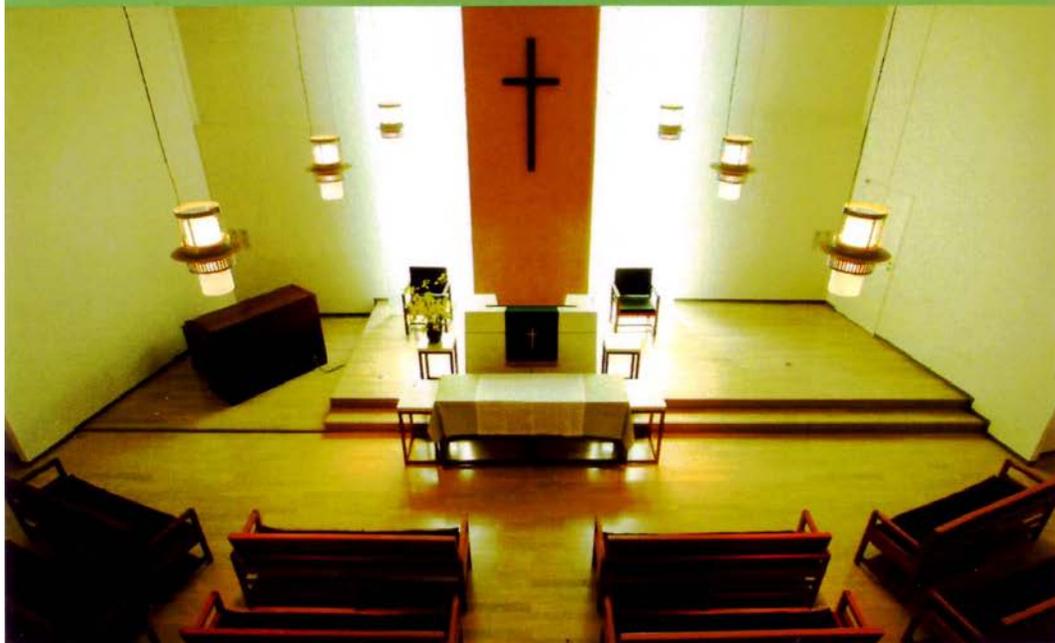
「わたしの愛する人たち」と呼びかけられてあなたがたもそのように生きてみたらよいとわたしたちもまた召されています。この召しにお応えすることは幸いです。この幸いは、終わりの日、キリストと顔と顔を合わせてお会いする日におほめをいただくことではじめてほんとうの報いを受けることになるでしょう。神が、そのように生きることを望んでいてくださるので、わたしたちも同じようにこの幸いに生きることができます。

主イエス・キリストが生きておられることを心から喜ぶパウロの言葉に励まされて、わたしたちの罪をすべて負ってくださった十字架の主イエス、永遠の命を確かなものとされた復活の主キリストを心から喜ぶ日々に、ほんとうにキリストがわたしたちの間に生きて働いていてくださることを信じる救いの毎日に生きることができます。

### 集会出席統計（月平均人数）

	2017年	
	3月	4月
主日礼拝	86.0	93.4
聖書と祈り会	16.4	18.0
教会学校*	98.8	127.6
* 保護者、教師を含む		
(第1主日開催)	3月5日	4月2日
聖餐夕礼拝	13	11

# 2017年6月 柿ノ木坂教会 伝道月間



わたしたちの教会では6月伝道月間に、毎日曜日、特別伝道礼拝を献げます。  
日曜ごと、礼拝のため立てられる説教者たちが、祈りをもって聖書の御言葉を取り次ぎ語ります。  
キリスト教、教会に関心のある方、はじめてでありましてもご出席ください、ぜひ礼拝をご一緒ください。

6/4 (日)  
AM 10:30~



説教「なぜ、死者の中に捜すのか」

日本基督教団  
柿ノ木坂教会牧師 渡邊 義彦 牧師

6/11 (日)  
AM 10:30~



説教「真の恐れを」

日本基督教団  
柿ノ木坂教会協力牧師 松下 恭規 牧師

6/18 (日)  
AM 10:30~



説教「わたしだ、恐れるな」

東京神学大学学長 大住 雄一 牧師

6/25 (日)  
AM 10:30~



説教「あなたも招かれています」

東洋英和女学院  
中学部高等部宗教主任 高橋 貞二郎 牧師

日本基督教団 柿ノ木坂教会

## 「私にとっての讃美歌と聖書」

松田 町子

4月23日夜9時からNHKテレビ第2チャンネルで放映されていた「鈴木雅明のドイツオルガン紀行」に夫が熱心に聴き入っているのを見て、私は少し驚いた。夫は、この時間のN響アワーの番組では、お気に入りのモーツァルトやその他の聴き慣れたクラシックにしか興味を示さないことが多いからだ。ドイツの幾つかの有名な教会のオルガンの説明をしながら鈴木雅明さん自らがパイプオルガンを弾かれ、私も夕方の片付けをしながら聴いていた。全てバッハの曲であったが、その中に3曲位聴き慣れたメロディーがあり、その都度「これ讃美歌にあるわ。」と言っていたが、どの讃美歌なのか思い出せずにもどかしかった。

普段、私は家庭で讃美歌を口ずさむことが滅多にない。教会で讃美歌を歌う時は、特に最近はその歌詞を味わいながら自ずと感謝して歌っている。どの讃美歌もそれぞれに味わい深く、一つを選ぶのは難しい。私たちの結婚式には1曲を選ぶように言われ、讃美歌520番「しずけき河のきしべを」が当時一番好きで、今も好きであるが、その曲を選んだ。私の母は讃美歌をよく歌っていた。昭和21年～28年に私たちは父の会社の関係で秋田県に移り住んだ。そこで母は近所の親しい奥さんたちを自宅に招いて讃美歌を教えていた。母はクリスチャンではなかったが祖父がクリスチャンで、姉たちはみな東京のミッションスクールの女学校に入り、夏休みなどに帰郷すると、よく讃美歌を歌っていたらしい。祖父が急逝して、末娘の母のみ地元の女学校に通ったが、元々音楽好きな母にとって讃美歌は生涯の友であったようだ。母の愛唱讃美歌は、「まぼろしの」、「うるわしの白百合」など十数曲に及ぶ。臨終の床で妹と私は母の愛唱

讃美歌を歌うと酸素数値が上がり、慰めることができた。

15年程前から、40年間ほったらかしておいたピアノを習い始めた。3年程前にメンデルスゾーンの曲集に讃美歌211番の曲を見つけ弾いてみた。学生時代過ごした母教会である阿佐ヶ谷教会の共励会（学生の会）での夏の修養会で野尻湖に行き、朝の清々しい礼拝でこの讃美歌を歌ったことを懐かしく思い出す。そうだ、これを私の愛唱讃美歌にしようと思いついた。

「あさかぜしずかにふきて、  
小鳥もめさむるとき、  
きよけき朝よりきよく、  
うかぶは神のおもい。」

以下2番、3番省略

結婚後、長い間教会から離れていたが、1967年に日吉から八雲に引っ越して、1969年に柿ノ木坂教会に転会した。当初から、毎週水曜日午前中もたれていた聖書の集いに出席して、小川先生から聖書の手ほどきを受け、また文先生やお友達と親しい交わりに加えていただいたことは、今も忘れられない。その後20年くらいを経て、今は亡き西脇信子さんから、「松田さん、美竹教会でやっている聖書研究に行ってみたら、頭がおかしくなりそうだった。是非一緒にいきましょうよ。」と誘われた。この学びは全国教会婦人会連合で1979年から学び始めた岡村民子先生による「正典としての聖書の学び」で、西脇さんが参加されたのは東京教区婦人部主催の月1回の集会であった。南支区婦人部でも早くから始められ、当時私も大森めぐみ教会の中村トミさんから熱心なお誘いを受けていたが、会場の久が原が少し不便なこともあって失礼していた。し

かし西脇さんからの誘いを機に私はこの学びを始めることになった。この学びにより、聖書の中の一書、例えば創世記や出エジプト記などをそれぞれ通して読むことを教えられた。

2010年より柿ノ木坂教会では、聖書の集いと、それまで中断されていた祈祷会が一緒になって「聖書と祈り会」が始まり、私も出席している。渡邊先生が旧約聖書を紐解いてくださった後の活発な質問に、松下先生ご夫妻も交えて話に花が咲く。教会で聖書を中心にした主にある交わりを実感することができる。また最近、私宅の家庭集いに未信者の夫も加わり、讃美歌を歌い、聖書を読んで先生から聖書のお話を伺って、主にある交わりに感謝している。

2月11日に行われた東京改革長老教会協議会主催の講演会で左近豊先生のお話を伺った。聖書は、民が神の聖い民となるよう神が訓練されているということをお話しているとされた。み言葉を食べる(エゼキエル書3章1～3節)ことによって養われ、多くの人々に

述べ伝えるということをお学んだ。

私の好きな聖句と問われると、まだまだ聖書の読みが浅く断定できないが、若い人たちに贈る言葉としては、イザヤ書40章28～29節を挙げたい。

「あなたは知らないのか、

聞いたことはないのか。

主は、とこしえにいます神

地の果てに及ぶすべてのものの造り主。

倦むことなく、疲れることなく

その英知は究めがたい。

疲れた者に力を与え

勢いを失っている者に

大きな力を与えられる。

若者も倦み、疲れ、

勇士もつまずき倒れようが

主に望みをおく人は新たな力を得

驚のように翼を張って上る。

走っても弱ることなく、歩いても疲れない。」

毎週教会に通い、讃美歌を歌い、み言葉を伺って養われる幸いに感謝している。

## ☆☆☆教会の行事☆☆☆

### ◆いままであったこと

- ◇4月 9日(日) 棕櫚の主日、受難週に入る。  
2017年度定期教会総会
- ◇4月13日(木) 洗足木曜日
- ◇4月14日(金) 受難日
- ◇4月16日(日) 復活日(イースター)

### ◆これからの予定

- ◇6月 4日(日) 聖霊降臨日(ペンテコステ)
- ◇伝道月間 6月の各主日(p.3の案内をご覧ください)
  - 6月18日(日) 礼拝後、愛餐会。東京神学大学学長・大住雄一先生をお迎えして。
  - 6月25日(日) 礼拝後、愛餐会。東洋英和女学院中学部・高等部の宗教研主任・高橋貞二郎先生をお迎えして。
- ◇7月 2日(日) 礼拝後、教会会計決算報告会
- ◇7月30日(日)～8月1日(火) 教会学校丹沢サマーキャンプ

## 「聖歌隊」

いしまる よしひこ  
石丸 恵彦

聖歌隊の指揮者に加わらないか、と、井澤兄と榊田兄にお誘いをいただき、うかうか引き受けてしまったのが2年ほど前のこと。この度機会をいただいたので、個人的な話で恐縮ですが、筆者の歌との関わりを少しばかり書かせていただきます。

歌は昔から好きだったものの、児童合唱団などで活動したことはありませんでした。音楽についてはバイオリンを習っていて（なんと福本<現・渡辺>久子先生のお父上に！）、教会でキスト岡崎エイブラハム先生率いるバンドの一味に加担したこともあります。幼稚園の卒業アルバムには「将来はバイオリニストになりたい」との記述が。うーん、子供ってオソロシイ。

実の所、音楽は好きではあったものの、子供の時は大して入れ込むこともありませんでした。ただ、中高は合唱祭が盛んな学校だったので、見よう見まねで指揮など振ってみたのが後々まで響いたのは確かです。当時の噴飯ものの指揮映像はバッチリ残っています。見返したことは殆どありませんが…。

大学受験をきっかけにバイオリンをお休みしてしまいました。幸い大学には首尾よく受かったので、オケにでも入ってみようかという気持ちもあったのですが、合奏の経験が乏しかったのもあって何となく気が引けました。そこで出会ったのが合唱。たまたま同じ高校の先輩やら同輩やらがいるサークルに捕まり、明るい雰囲気（と可愛い女性の先輩たち？）に乗せられて、アレヨアレヨと言う間に入団してしまいました。思った以上に楽しかったのでつい入れ込んでしまい、三年生の時にはベースのパートリーダーを務めることに。人前で曲がりなりにも喋れるようになったのは、おそらくこの時の経験と教会学校でのお説教

担当のおかげです。（この合唱団には今もOBとして折に触れ参加しています。）

筆者の音楽歴といえどこのくらいで、別に指揮法の勉強をしたわけでもなく、いい加減な所も多いかと思えます。有難いことに、合唱団の先生は面白いことを沢山教えてくださいましたので、今はそれらを頼りにしています。今後は賛美歌をはじめ各方面に見識を広め、聖歌隊指揮者として一層精進していきたいと思っています。何卒よろしくご指導くださいませ。



2015年聖夜  
礼拝直前の  
聖歌隊練習で  
指揮をする



2015年聖夜  
礼拝で会衆を  
三つに分けて  
Dona nobis  
pacem  
を指導する



2002年の聖夜礼拝では聖歌隊に混じって歌っていた！

## ◇聖歌隊についての補足(この項井澤浩一)

### 1. 柿ノ木坂教会聖歌隊の歴史

1950年代以前は資料がなくわからない。

#### 第1代 1950年代はじめ

疎開先の熊本で九州学院の中学生の時、通っていた教会の聖歌隊で大人に混じって歌っていたのが私(井澤)の聖歌隊こと始め。

青山学院高等部時代は、音楽部や宗教部に入っていて讃美歌はよく歌っていたが、教会には行かずじまい。高校卒業後、覗いてみたのが柿ノ木坂教会。聖歌隊があって、すぐに入れてもらった。

2016年に天国に召された石田克己兄の指導で、津川圭一著「古典合唱教典」を使っての古典聖歌合唱曲の練習をしていた。

下は1954年12月のクリスマス音楽礼拝の時の写真。前列左から3人目に石田兄、その右に小川牧師、後列左から4番目に井澤。



この聖歌隊は、青年層で構成されていたこともあり、転勤や業務多忙などで、団員が減り、自然消滅してしまった。しかし、1958年の燭火礼拝での写真が残っているので、この少し後までは残っていたのであろう。

#### 第2代 1962年からの数年

1962年に徳田雅子姉の呼びかけで、都度メンバーを集める、高校生会と青年会中心の、ゆるい聖歌隊が誕生。

1963年12月22日に野呂信次郎先生をお招きしたクリスマスの夕べが開かれ、“聖歌隊”が歌った。(下の写真)



1965年12月24日に都民クリスマス・イブという催しがテアトル東京であり、故・林検治兄の肝いりで、“柿ノ木坂教会聖歌隊”が映画「偉大な生涯の物語」の上映前にスクリーンの前で讃美歌を歌った。

そして、同年12月19日のクリスマスの夕べ、1966年12月24日のキャンドルサービスと歌っている。

その後、徳田雅子姉が転会され、私も業務都合で横浜に転居、そこから柿ノ木坂教会に通ったが、仕事も忙しく、1979年に戻ってくるまで聖歌隊活動はできない状態だった。

#### 第3代 1988年から現在

1988年6月になり、棟居湘子姉、松田(現・鷺)晶子姉、井澤の3人が相談し、新たな聖歌隊を発足させた。

臨時編成の聖歌隊では訓練ができず、神様への賛美には問題であるとの認識からだった。

発足に当り、「礼拝において霊とまこととをもって賛美の歌を神に捧げ、また力強く会衆の賛美を支えることを使命とする」と定め、その他の決まりをしるした「隊員のしおり」も作った。更に、長続きする聖歌隊にするため、あえて、奉仕を特別の主日のみに絞り、練習も礼拝後の短時間と、奉仕日前日の夜のみとした。その結果、再発足から現在まで29年続いている。

#### 2. 聖歌隊の位置付け

聖歌隊は、礼拝で会衆賛美を支えることと共に、献金と併せて、賛美の捧げものを主に捧げることを第一の使命としている。

また、私自身が聖歌隊を通じて受洗に導かれた経験もあり、当時の長老会の承認を得て、聖歌隊の意味を理解する求道者も準隊員として加わることができるとしている。

#### 3. 聖歌隊の体制

聖歌隊長、指揮者(現在は榊田長老、石丸恵彦兄と井澤が交代で務めている)に加え、伴奏者、総務事項を担当する隊員で委員会を構成し、選曲や運営に携わることにしたが、未だに不完全な体制で、立て直す必要がある。

#### 4. 現在の悩み

当然教会と同様に隊員の高齢化が進むこと。昔のような、とはいかないが若い声が欲しい。

それに、礼拝後、隊員の多くが教会の仕事で忙しく、時間通りに練習が始められないこと。しかし、今後とも良い奉仕ができるように務めてまいりますので、聖歌隊に加わらないまでも、お祈りのうちにお覚え下さい。

(聖歌隊長 井澤 浩一)

## 今月のメッセージ

— ホームページ巻頭言 から —

ホームページには多くの情報が掲載されています。  
ぜひご覧ください  
<http://kakinokizaka-church.com>

わたしたちの助けは  
天地を造られた主の御名にある。  
(新共同訳聖書・詩編第124編8節)

東日本大震災から6年を経た石巻を訪ねました。石巻の教会に仕えている同労の牧師に石巻、女川を案内してもらって、震災から6年後の復興、再建の姿、6年前の震災、津波被害の大きさを改めて間近にしました。石巻は、仙台以北では宮城県内で最も大きな町ですので復興にも時間がかかっているとのことでした。一方、女川は、石巻市が市町村合併をしたときに地域で唯一合併しなかった町で、一地域の復興、再建に力を集中していて、そのスピードも速いとのこと。実際、女川駅から、被災当時、救助、救援の拠点病院ともなった女川病院を中心に、港からの一帯を嵩上げし再開発が猛スピードで進んでいるのがよくわかりました。

石巻では、かつては田んぼや畑がひろがっていた石巻の郊外と呼ばれていた地域に宿泊しましたが、今は、まわりには田畑は見当たらず、一帯に戸建ての住宅が広がっています。地方の都市にしては珍しい風景に見えます。郊外に土地があり高速道路などへのアクセスのよい地域には、幹線道路が東西に延びていて、その幹線沿いに大型店舗が並んでいるけれども、そこから少しはずれてみると依然として、その背後には田んぼも畑もなお広がっているような、道路沿いの細く長い町並みと農村が混在してつながっているようなところが多いように思います。けれども、この石巻の郊外には一帯に家々が広

がっていて、建っている家も新築のものばかりなので、都市近郊でデベロッパーが小規模な宅地開発して生み出したようなベッドタウンが延々と広がっているかのような姿をしています。石巻の市街地や海沿い、港湾の近くに住んでいた人たちの多くが移り住んでいるとのこと。町ごと新しく郊外に移築されたかのような様相です。そのような中になお仮設住宅も残されています。市街地の中心には、3階建て、5階建ての復興住宅も建てられていて生活を始めている姿も多くありました。しかし中には、駅から距離があったり、生活用品を日々手に入れるに不便であるなどの理由で入居があまり進んでいないものもあります。なお、祈り続ける必要を実感しました。

冒頭に掲げた聖書の言葉は、3月11日、地震、津波が起って2週間を待たずに日本基督教団総会議長が全国の教会に発信した声明の冒頭に掲げた聖句です。未曾有の災害を前にして言葉も祈りも失いかねない中で御言葉の示す信仰に立つことを訴えたものでした。あの大きな災害を前にしてこの信仰に立つことの困難を覚えたのも事実です。しかし、わたしたちの不信仰を越えて、御言葉は御言葉として、神の真実をわたしたちに語り続けています。大きな苦しみににおいても、日々の小さな悲しみや怒りににおいても、神のもとからだけ助けが来るのだ、という信仰に改めて立てられることが必要です。神の御前での、わたしたちの霊的存在の真実な再建も復興も、この信仰によるしかないゆえです。

(牧師 渡邊 義彦)

### 編集後記

- ・今年も「伝道月間」の季節を迎えました。この地に建てられた主の教会の民として、キリストを証するために、多くの方々をお誘いいたしましょう。
- ・「聖句・讃美歌」に書いてくださった姉の「歌詞を味わいながら歌う」、「み言葉を食べることによって養われる」という言葉に、改めて大切なことを教えられました。
- ・「各会は今」に聖歌隊について書いていただいた兄のこれからのご奉仕に期待します。神の御支えがありますように。
- ・教会報へのご意見、ご感想をお寄せください。  
(編集委員長 井澤浩一)

### 集会案内

主日礼拝 日曜日 午前10時30分  
聖餐夕礼拝 第1日曜日 午後5時  
入門講座 日曜日 午前9時30分  
教会学校 日曜日 午前9時  
(幼稚科、小学科、ジュニアチャーチ)  
\*ジュニアチャーチは中学生、高校生です。  
聖書と祈り会 水曜日午前10時、午後7時30分

日本基督教団 柿ノ木坂教会  
〒152-0022 東京都目黒区柿ノ木坂1-31-19  
電話 03-3717-3870 (教会・牧師館)  
03-3723-3870 (ベテル幼稚園)  
牧師 渡邊 義彦  
協力牧師 松下 恭規